

嵐山町の概要

嵐山町は、埼玉県のほぼ中央部、東京都心から 60km 圏に位置し、周囲は 1 市 6 町 1 村に接している。平安末期から鎌倉時代にかけて、町の中央を南北に通る鎌倉街道上道が賑わいを見せ、また、室町時代から戦国時代にかけては、菅谷城や杉山城等が築城され、上杉氏や後北条氏の前線拠点となった。昭和 30 年 4 月に菅谷村と七郷村が合併し菅谷村となり、さらに、昭和 42 年 4 月には町制を施行し、「嵐山町」が誕生した。

町域は、東西約 2.6km、南北約 11.5km の南北に長い形状で、総面積は 29.85 km²である。周囲を標高約 90～100m の山稜が連なっていて、全体として起伏に富んだ、平坦地が少ない地形であり、水と緑に恵まれた自然環境を有している。平成 17 年 3 月 1 日現在、町の人口は 19,443 人、世帯数は 6,817 世帯、人口は平成 7 年以降ほぼ横ばいで推移しているが、1 世帯当たりの人員は昭和 50 年から一貫して減少の傾向が見られる。

交通は、国道 254 号、主要地方道深谷嵐山線、県道菅谷寄居線等の幹線道路が、中心市街地から放射状に町外へ向かって伸びている。また、東武東上線が町のほぼ中央部を横断し、滑川町との境に「武蔵嵐山」駅がある。平成 14 年には長年の懸案であった東武東上線の複線化と武蔵嵐山駅の橋上駅舎化が実現した。町の南東から北西に伸びる関越自動車道においては、平成 16 年 3 月に「嵐山小川インターチェンジ」が開通、アクセス道路となる県道熊谷小川秩父線バイパスも併せて開通した。今後の広域交通ネットワークの整備進展とこれに伴う定住人口や観光客の増加、新規企業の進出等が期待されている。

商業施設は、武蔵嵐山駅周辺に従来から形成されている商店街に加えて、国道 254 号バイパスの沿道にロードサイド型店舗の立地が進んでいる。スーパーをはじめ、大型衣料店やレストラン、書店等が進出し、今後も自動車利用を前提とした沿道型の商業系市街地として形成されていくものと思われる。また、工業生産の拠点として、平成 7 年に完成した町の北部にある嵐山花見台工業団地は、関越自動車道の嵐山小川インターチェンジの開通に伴い利便性が高まるため、未利用地への企業誘致をさらに進めるほか、インターチェンジ周辺には、物流施設を核とする業務地の形成が期待されている。

嵐山町は、平成 13 年度を初年度とし、平成 22 年度を目標年度とした「第 4 次総合振興計画」を策定した。これに基づき具体的施策となる各種諸計画を策定し、武蔵嵐山駅を中心に広がる既存市街地を核とした放射・環状型の交通ネットワークの構築や、現在事業中である平沢・東原の土地区画整理事業等による市街地の整備推進、少子高齢化に対応した福祉体制の確立等を目指すと共に、厳しい財政状況の中で行財政の改革を行っている。

平成 17 年 3 月 18 日現在